

イクシスLNGプロジェクト

専務執行役員
オセアニア事業本部長
大川 人史



プロジェクトストーリー



Ichthys LNG
gas-condensate field



試掘井、評価井掘削



建設期間



1998

鉱区取得

2000

試掘井にて
ガス胚胎確認

2008

LNGプラント建設地
をダーウィンに決定

2012

FID

2018

生産開始

2023

現在

3名から
スタート



約1,500名
の従業員

開発当初の計画を超えた年間930万トンの生産体制に向けて

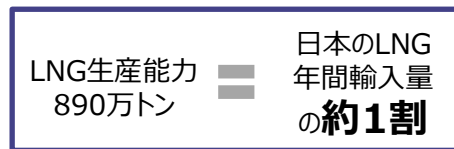
- 施設能力の制約となる設備を改良
 - 陸上LNG施設の冷却関連システムのアップグレード
 - 機器の振動対策
- これまでに施設能力の向上を確認。設備の稼働率の更なる向上を目指している

北部準州に対してガスを随時供給

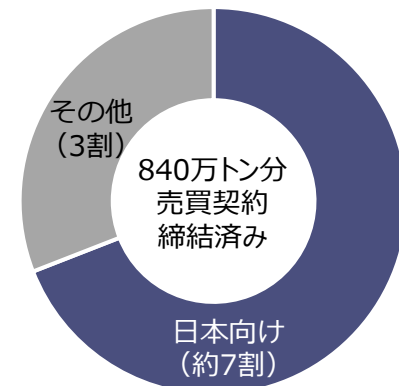
LNGカーゴ数



日本、オーストラリアの経済に貢献



LNG長期販売契約内訳



イクシス追加開発

- 現在生産井の掘削を継続中
- 深部リザーバーでも良好な性状を確認
- 安定した生産継続のために海上施設への追加設備を建造中

周辺地域の開発検討作業

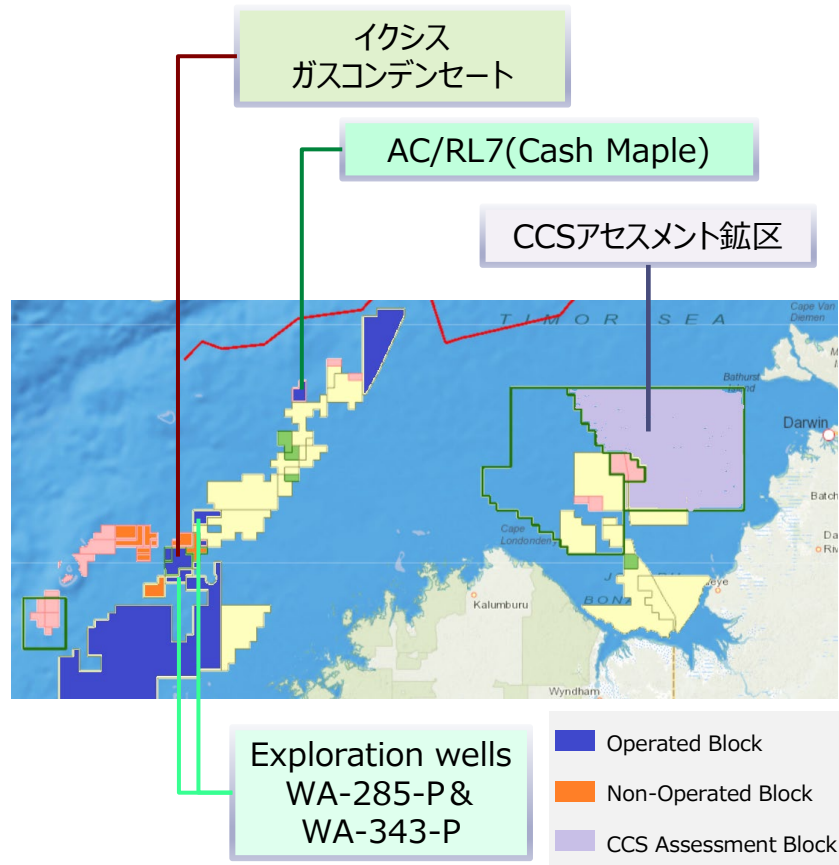
- イクシス北東約250kmの既発見未開発ガスコンデンセート田の権益を取得 (AC/RL7:Cash Maple)
- イクシス施設への繋ぎ込み、2030年代の生産開始を想定

周辺地域の探鉱活動

- イクシス周辺の当社鉱区で試掘を開始
- 他鉱区も鉱区評価を継続中

第3トレイン拡張に向けて

- 2030年代の稼働に向け、案件評価継続中



2050年ネットゼロへの挑戦として、クリーンなエネルギーの安定供給を目指す。また、豪州で操業を続けるための責務として、脱炭素への取り組みを進めていく。

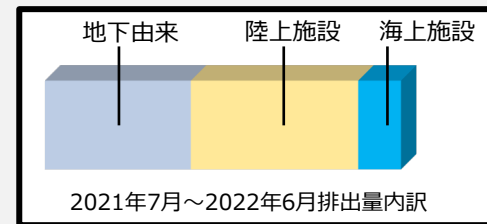
具体的な対策

1. CCS事業

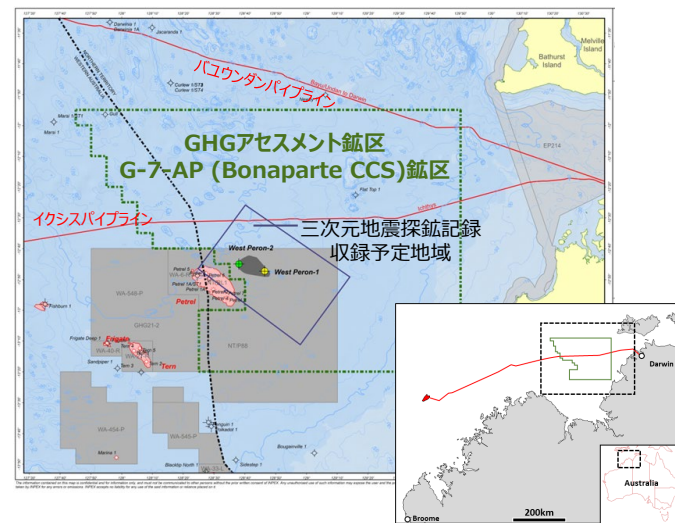
- ダーウィン近郊海域 GHGアセスメント鉱区G-7-AP (Bonaparte CCS) 鉱区を取得
- 新規三次元地震探鉱記録の収録、評価井の掘削準備中
- 地下由来のCO₂をイクシス陸上施設で回収し、地下へ圧入する計画
- 北部準州政府等が主導するダーウィンCCUSハブ構想等の実現に資するもの

2. 更なる削減をめざして

- Wheatbeltプロジェクトの植林も開始済み
- ACCUsの取得
- LNG施設排出量削減のため、運転効率改善中
- LNG施設への再エネ電源等の導入も検討中



2021年7月～2022年6月
公表排出値 (Scope 1)
6,739,077 (tCO₂-e) 豪州12位



Employer of Choice : 継続的な雇用、望まれる職場であり続けることを意識して

Partner of Choice : 政府、業界やステークホルダーから選ばれる会社へ
関係強化、ESG強化サポート等

地域貢献

- 1) 先住民社会との協調活動計画 (Reconciliation Action Plan) 2023-25
 - 双方向の更なる関係向上
 - 文化・歴史の理解促進
 - 教育・経済・社会発展機会の創出
 - 協調促進
 - 積極的な雇用
 - 社会・文化・経済機会への支援
- 2) ララキア・イクシスLNG財団信託 (Larrakia Ichthys LNG Foundation Trust)
 - 先住民であるララキア族に対して、今後40年間2,400万豪ドルのコミット
- 3) INPEX教育交流財団による奨学金プログラム
 - 豪州から日本へ、日本から豪州へ





豪州政府等による種々の政策変更はエネルギー事業にとってチャレンジ。
これまで積み上げてきた関係を活かし、投資環境の維持に向け
政府等に対して積極的に働きかけていきます。